

## 会議録

- 1 附属機関の名称  
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時  
令和元年12月18日（水） 午後7時04分から午後8時50分まで
- 3 開催場所  
犬山市役所 2階 201、202、203会議室
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 委員 鈴木誠、嶋田喜昭、水内智英、藤岡喜美子、松浦英幸、平田幸恵、石田要、中濱友子、佐々木かなめ、中村貴文、畑竜介
  - (2) 執行機関 鈴木経営部長、井出企画広報課長、小枝企画広報課統括主査、安藤企画広報課統括主査、倉知企画広報課主査補、熊澤企画広報課主事、中柴企画広報課主事
- 5 議題  
【協議事項】
  - ・「(第2期) いいね!いぬやま総合戦略」について
- 6 傍聴人の数  
0人

### 7 内容

#### (1) 開会

事務局	本日はお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。 ただ今より「令和元年度 第2回犬山市総合計画審議会」を始めさせていただきます。 本日の進行は、企画広報課の井出が務めさせていただきますので、よろしくお願ひします。まず始めに、鈴木会長よりごあいさつをいただきたいと思ひます。 鈴木会長、お願ひいたします。
-----	---

#### (2) あいさつ

鈴木会長	みなさん、こんばんは。本日第2回目の犬山市総合計画審議会になりました。前回は第1回目ではありましたが、積極的に思ひをもつて臨んだ、良い話し合いができたと思ひております。限られた時間ではありましたが、それぞれの皆さんがお考へになつてゐることを問題提起として、いろんな提案をいただきました。それを今回の見直しに役立てていくために事務局がしっかりと記録をとつてゐます。今日も限られた時間ですので、皆様のご発言時間が十分に確保できないことは重々承知してゐますけれども、お読みいただいた資料を基に皆様に積極的に意見交換をしていただきたいと思ひ
------	--

	<p>ます。また、ご意見、ご提案がありましたら、文書で事務局にお出しいただくと、限られた回数の中で、より有意義な議論ができると思います。ご協力をよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。本日の会議につきましては、お手元の次第に従って進めさせていただき、概ね2時間程度の予定です。なお、本日の会議は、委員総数14名のうち、現在、出席8名となっています。嶋田委員、中濱委員は遅れてご出席いただけるとの連絡をいただいています。高橋委員、寺沢委員、中村昭典委員は、どうしてもご都合が悪くご欠席とのご連絡をいただいております。</p> <p>今、平田委員がいらっしゃいましたので、現在の出席委員は9名です。</p> <p>会議を開催するにあたり、「犬山市総合計画審議会設置条例」第6条第2項に基づき、出席者が過半数を超えておりますので、本会は成立いたしましたことを報告いたします。</p> <p>ご案内となりますが、本審議会は、「犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドライン」に基づき、公開とさせていただいています。併せて、後日、会議録も公開させていただきますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。</p> <p>また、会議録につきましては、事務局で作成したものに、会長の指名する2名以上の署名をいただくこととなっています。事前に会長と打ち合わせをしまして、本日の会議録への署名は藤岡委員と石田委員にお願いいたします。</p> <p>それでは、ここで配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>事前に送付させていただきました資料として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「はじめにお読みください」</li> <li>・次第</li> <li>・委員名簿</li> <li>・資料1「第1回総合計画審議会委員発言要旨」</li> <li>・資料2「(第2期) いいね! いぬやま総合戦略 構成案」</li> <li>・資料3「掲載する事業の方針」</li> <li>・資料4「チャレンジする重点事業、チャレンジする主な取り組み新旧対照表」</li> </ul> <p>こちらは、①～③まで計3枚の資料となっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料5「(第2期) いいね! いぬやま総合戦略 (案) 抜粋」</li> </ul> <p>さらに、皆さまのお席には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・追加資料1 資料5 B-1差替</li> <li>・追加資料2 持続可能な開発目標 (SDGs) の詳細</li> </ul> <p>を配布しております。加えて、「第5次犬山市総合計画改訂版」の本冊及び概要版と、「いいね! いぬやま総合戦略」の本冊と概要版を用意しています。</p> <p>多くの資料となり恐れ入りますが、過不足等がございましたら、事務局までお申し付けください。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ここから議事に入ります。ここからの議事進行は、鈴木会長にお願いします。</p>
鈴木会長	<p>それでは、最初に協議事項の『「いいね! いぬやま総合戦略」改訂方針について』、事務局から委員の皆さまに説明してください。</p>

事務局	<p>それでは、本日の協議に先立ちまして、本日の協議事項について説明させていただきます。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>資料1は、前回の審議会でのご意見について、事務局でとりまとめた要旨です。両面印刷になっており、右肩に「表面」とあるものは、総合戦略全体におよぶと判断したものや、「その他」としてありますが、分類ができなかったものを記載しています。裏面は、現在の戦略の3つの基本目標ごとにまとめたものです。欠席された方につきましては、後日、聞き取り等を行って、この資料に反映しております。</p> <p>資料2をご覧ください。</p> <p>前回の審議会にて、総合戦略の改訂については、現在の総合戦略を最大限に尊重したものとすることと決まりました。それを踏まえて、現在、考えている構成がこちらです。変更内容としては3つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一つ目、第1期の策定経過に関する記載の削除</li> <li>二つ目、表現を分かりやすくするための、タイトル等の微修正</li> <li>三つ目、これまで一括して記載していたものを分割して整理の3点になります。</li> </ul> <p>資料3をご覧ください。</p> <p>併せて、戦略本冊の9頁、10頁をお開き下さい。</p> <p>前回の審議会では、戦略改訂の方針として、3つの基本目標は変えない。ただし、その中にある事業については、社会情勢の変化等に対応させながら、時点修正等をしていくといったことを説明し、ご了承いただきました。</p> <p>それを踏まえ、「チャレンジする重点事業」、「新たにチャレンジする主な取り組み」という表現から、改訂後の総合戦略に、新たに掲載する事業、継続して掲載する事業、掲載をとりやめる事業、についての方針をまとめたものが資料3となります。なお、「新たにチャレンジする主な取り組み」と言いましたが、「新たに」の部分は改訂にあわせて付け足そうと考えている表現です。</p> <p>掲載をとりやめる事業の一部について、補足して説明させていただきます。ウ)にあります「方針決定済み」につきましては、現在の戦略16頁下段にあります「奨学金補助で犬山への就労・定住を促進します」、この事業のみが該当します。これだけが、事業の見送りとなっています。現在の戦略策定後、実施手法等を検討しましたが、費用と定住への効果等を比較衡量した結果、実施を見送ることとし、市長が議会にてその旨を表明している事業となりますので、今回、掲載を見送ろうかと考えております。</p> <p>資料4をご覧ください。</p> <p>戦略本冊はそのままお開きください。</p> <p>先ほどの、「奨学金補助で犬山への就労・定住を促進します」が「チャレンジする重点事業」、その左下にある「奨学金補助で犬山就労定住促進！事業」、が「チャレンジする主な取り組み」となります。先ほどお話した通り、この表現については「新たにチャレンジする主な取り組み」に変更したいと考えています。</p> <p>先ほどの資料3の方針に従って、重点事業、主な取り組みの現在と、改訂案を比較したものが資料4となります。左側緑色が現在、真ん中黄色が改訂案、右側オレンジ色が改訂案の理由です。</p> <p>なお、改訂後に記載する順番は、現在と比較しやすいよう並べているだけですので、実際に掲載する順番については、今後、整理させていただきます。</p> <p>資料5をご覧ください。</p>
-----	---

前回いただいた審議会でのご意見は、可能な限り、改訂後の戦略に反映したいと考えていますが、反映の方法はさまざまあるため、どのように反映されていくのかをイメージしていただくために用意したものが、資料5となります。概ねこのような内容で進めていきたいと考えておりますが、内容の詳細や細かな表現については、現在検討中となりますので、ご了承ください。

資料5を1枚めくっていただいて、A-4、A-5頁をお開きください。「総合戦略の推進について」というタイトルのページ先ほどの資料2、2章では「総合戦略の推進にあたって」としたものです。表現が統一できておらず申し訳ありません—このページを設け、ここに、国・県の戦略の方針であったり、前回の審議会でのご意見のうち、先ほどの資料1の表面にある総論に書かれている内容—マッチング、PR、取りこぼさない—といった視点を盛り込みたいと考えております。この見開きページは、国の総合戦略が閣議決定されるのを待ってから作り込みたいと考えております。

次の頁へお進みください。

先ほどご覧いただいた現在の戦略9頁、10頁に対応するページです。このページは基本的には変えません。本日の審議会でのご意見、市役所内部での調整を経て、「検討中」としてある部分を作り込みます。

次頁以降は、それぞれの基本目標の「特徴と課題」、「5年間のすすめかた」、「目標指標（KPI）」、「重点事業」、「新たにチャレンジする主な取り組み」について記載しているページです。

「目標指標（KPI）」につきましては、現在、その項目、目標値、ともに検討中とさせていただきます。

なお、B-1頁について、資料の修正があります。

郵送した資料では、「特徴と課題」等を誤って削除したものを送付していたため、本日、机の上に差し替え用の1枚ものの資料をご用意しております。B-1頁につきましては、そちらをご確認していただきますようお願いいたします。

改訂後の戦略では、新たに「SDGs」について記載しようと考えています。

B-2、頁右側中段にアルファベットで「エスディージーエス」と書かれた枠が設けてありますが、ここで「SDGs」についてごく簡潔に説明させていただきます。

本日配布しました追加資料2をご覧ください。

「SDGs」とは、持続可能な開発目標と訳されており、最近では環境問題等に関連してニュース等でも取り上げられることがあります。これは2015年9月の国連サミットで採択された、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための2030年を年限とする17の国際目標＝ゴールです。SDGsの達成にあたっては、自治体行政の貢献が必要です。犬山市としてSDGsに取り組むためには、職員がまずSDGsの理念を理解し、自分達の実施している事業がSDGsのどのゴールに向かっているのか、を把握することが第1歩だと考えております。ですので、総合戦略の重点事業には、17あるSDGsのうち、該当するもののアイコンを明示しようと考えております。

資料5の中で、SDGsと書かれている四角い枠には、該当するアイコンを掲載する予定です。

簡単ではありますが、資料の説明は以上です。

続きまして、協議についてですが、本日の協議の時間では、「重点事業」、「新たにチャレンジする主な取り組み」を中心に協議していただきたいと考えております。グル

	<p>ープに分かれたあとに、改めて説明いたしますが、資料4、5に記載されていることのほか、移住・定住施策について、ご提案等いただければと思います。</p> <p>その後、委員お一人ひとりからご感想、ご意見をいただき、本日、「重点事業」、「新たにチャレンジする主な取り組み」については、ほぼほぼ確定させ、次回の審議会では、必要な修正をし、事務局から案を提示します。</p> <p>あわせて、資料5のうち、策定中としましたA-4、A-5頁、目標指標（K P I）につきましても、次回の審議会にて、事務局案を提案させていただきます。</p> <p>今回は、改訂後の戦略に掲載する、これ以外の部分も含めて、事務局から改訂案を提示いたしますが、時点修正程度にとどめたいと考えており、内容や方向性について本格的な協議やご意見をいただくのは本日が最後となる予定ですので、慎重な協議をよろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からの説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>ただいまの事務局からの説明について、ご質問、ご意見等あれば、ご自由にご発言いただきたいと思います。意見のある方は挙手をお願いいたします。</p>
中村（貴）委員	<p>市議会議員の中村です。第1回は欠席して申し訳ありませんでした。</p> <p>市議会から、資料3のウ）方針決定済の「奨学金補助で犬山への就労・定住を促進します」、結果として掲載を取りやめるという説明が今あったところですが、11月の全員協議会の中で、玉置議員がこの件を一般質問され、回答は先ほど説明があった通りでしたが、時間軸として、11月にやった時点では、掲載を取りやめる事業ということは聞いていなかったもので、12月18日に再度、「あなた達は議会を代表して出席しているのだから、私の意見も言ってきてください」と言われています。奨学金補助の結果は出てはいますけれども、全員協議会で、審議会で報告、私は進行役なので、畑議員が報告するわけですが、大まかなことしか報告していなくて、どうなったか聞かれても、我々は答弁する側ではないので、きちんと、意見、質問した人のフォローアップをやっていただきたいと思います。さらに12月議会で、一般質問で吉田議員と小川議員が総合戦略について質問したのはご承知だと思いますので、きちんとフォローアップをしていただきたいと思います。要望になってしまいますけど、よろしくお願いいたします。</p>
鈴木会長	<p>フォローアップというのは、どのように対処したら良いでしょうか。</p>
中村（貴）委員	<p>きちんと進捗状況、あるいは中間報告をしていただきたいと思いますということです。</p>
事務局	<p>今回、奨学金を事務局提案でなくす方向で話をさせていただきましたが、皆さまになぜ消すかをきちんと説明ができていけませんので、どういう検討をしたかということをお話させていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>費用対効果についてお話ししたいと思います。費用対効果を検討するにあたっての制度設計ですが、対象を犬山市内に居住している人、かつ、犬山市で就労している人、かつ、奨学金を返している人で年齢は30歳まで。年間の上限は10万円で3年間支払い。制度開始の1年目に必要な予算が約3,600万円、2年目4,100万円、3年目4,600万円、4年目以降は1,500万円となります。</p> <p>最初の1年目は大学卒業から30歳まで、2年目は新しく奨学金の対象になる人が犬山に来る。卒業する人がいるので年齢が増える、次の年も増えていく。それ以降の年については、一番最初にもらっていた人たちが、減っていく形になるのでそれ以降は1,500万円となります。このときに使った根拠となる数字につきましては、国勢調査、日本学生支援機構の数字を使っています。犬山に定住してもらいたいという思いがありますが、この制度では就職するタイミングの人が対象になっています。そういった</p>

	<p>人だと、その後のライフステージ、結婚や子どもが生まれるタイミング、家を買うといったときに、引っ越しをする可能性が捨てきれない。就職先として犬山市で就職するという前提にしているので、近隣には住んでくれるかもしれませんが、犬山市に住んでも、もしかしたら出ていってしまう。やるに越したことはありませんが、費用と効果を考えたときに踏み出せなかったという状況になります。</p>
事務局	<p>そういった視点で犬山市の移住定住施策は、ライフステージで言うと家を建てるタイミング、あるいは子どもが生まれたタイミング、つまり30代～40代。そのあたりの人を狙った施策を打っています。例えばU I J ターンとして、家を建てたときに補助金を出しています。お金は無限にあるわけではないので、限られた財源の中、何を優先したら、犬山に長く住んでいただけるか。先ほどの当初は3,600万、4年目以降は1,500万。こちらに使うよりも、家を建てた人のために補助金に使った方が犬山市にとっては効果的な移住定住施策だという判断をしました。</p> <p>そういったところで、「奨学金補助をしていくのが効果的なんだ」という考えがあればご議論いただきたいし、「もっといい施策がある」ということであればご提案いただければと思います。あくまでも先ほどの事務局の提案ですので、そういったことを踏まえてご議論をいただければと思います。</p>
鈴木会長	<p>趣旨は分かりました。</p> <p>それでは、それぞれのテーブルで議論をしていきましょう。</p>

＜ 移 動 ＞

【Aグループ】

事務局	<p>本日もよろしくお願ひいたします。</p> <p>今日初めての方もいらっしゃると思いますので、はじめに簡単に自己紹介をしていただくと助かります。今日のグループ協議ですが、先ほど奨学金について掲載を取りやめるという案を出させていただきましたが、何か、一つ二つ、移住・定住施策について、目玉になるものがあると良いなどこちらも考えているところです。その点について、全く新しいことでも結構ですし、お配りした資料5の中の「これをもう少し磨き上げればいい」とか、「これに重点にすると良いのではないか」、また「なかなか優先順位はつけられない」ということ、奨学金のことでも結構です。何か移住・定住施策についてご意見をいただきたいと思います。また、事前にお配りした資料の中で、全体では言えなかったご意見、ご質問があればそういったことでも結構です。最初に自己紹介とご意見をいただきながら、最後に皆さんからいただいた意見をもとに協議出来たらと考えています。よろしくお願ひします。</p>
畑委員	<p>市議会の畑と申します。よろしくお願ひいたします。</p> <p>移住・定住というところで、資料を見た上での話ですが、教育の部分で犬山市が今進めている国語教育日本一というところを目指して、読解力を上げるために図書だとかに力を入れていることは重々理解していますが、少し気になったのが、つい最近も国の施策で、来年度以降小中学生にパソコン一人一台配る予算をつけると言っています。そういった教育のICT化というところで、全くもって触れられていないということが気になっています。これはしっかり進めないと、それぞれの市町で、教育格差というのが間違いなく出てきてしまうので、私の意見としては、これをしっかりと進めていくこと。先ほどの30～40代というと、ちょうど子育て世代になるので、「教育のまち犬山だよね」「犬山に来てよかったね」という、一つの定住・移住促進になる</p>

	<p>べき事柄ではないかなという気がしています。そこが全く入っていないというところに、違和感を感じます。表紙には書いてありますが、Society5.0というところも全く触れられていないので、市としてどうしていくのかというのは疑問です。そんなところですよ。</p>
藤岡副会長	<p>私の市民フォーラム21というNPOセンターでは、自治体改革と言いまして、こういった総合計画の策定支援などを行っている組織です。おそらくうちが一番最初に市民との協働の総合計画作りを行ったとか、成果指標を設定するというのも、我々が考えた仕組みで、一般的になってきたかなと。</p> <p>移住と定住に関しては、総務省の地域創生で、移住定住支援という事で、移住支援金、起業支援金があります。あれは各都道府県に任せられていると思いますが、2019年からのスタートなので、どんな状況かなということ。また、私は関東周辺から地域への移住定住というのを、関東方面で行っていますが、関東方面の人のニーズとしては、30代～40代の方は、お子さんは待機児童対策の保育期だけではなく児童期。小学生の子が都会では仕事との両立が難しい。学童保育や放課後児童クラブとかが満杯状態で、子どもが育つ環境ができていないことが課題で、そういったところで地域への移住という思考はある。もう一つは、フリーランスで仕事をされる人が、多いということがあるので、どこかに勤めるというよりはフリーランスで、企業のアウトソーシングを請け負う個人事業者みたいな形とか、小規模事業所の企業であるとか。自分たちの都合で両立をしたいというニーズがあると思いますので、30代～40代をターゲットにするのであれば、その辺の具体的な魅力がないと、まず無理だろうと。明確なウリがないと難しいと思っています。それからもう一つ、今回SDGsを、17のアイコンをとる事でしたが、17のアイコンと同時に169のターゲットがあると思います。1番から始まっていて、最初は割と発展途上国の目標。数字が大きくなると、先進国がグローバルにやらないといけないという形になっていると思います。ただし、4番と5番、先ほどの教育とジェンダー、日本は非常にこの数字が悪いですが、本当は発展途上国の目標ですが、日本の場合は自国もこれを目指さないといけないレベルであり、なおかつ先進国としての役割、昔はMDGsと言っていたものが、これに変わっていますので、そうするとここに記載をするときには、気を付けないといけないのではないかと思います。市民の方はそれほどご存じない方が多いと思うんですけど、なぜこのアイコンがここに入っているかが分かりにくいのではないかと思いますので、私はこの中の更に細分化された分かりやすい目標を何かの例で入れた方が分かりやすいのかなと思います。その辺のSDGsの扱い方は注意された方が良いでしょう。どこも今総合計画の見直しとか、コンサルタントの会社の人がまるではやり言葉の様にSDGsと言っていますので。以上です。</p>
事務局	<p>まだ記載していないので、記載の際にはご相談にのっていただけると助かります。続いて、松浦委員よろしくお願ひします。</p>
松浦委員	<p>犬山市社会福祉協議会の松浦です。</p> <p>先にお二人が話した内容の感想に近いですが、教育の国語力とか、来年からのパソコンの話は知りませんでした。私が子どものいない世帯だからかもしれませんが、その辺はPRしていくべきだと思いました。移住のことも私は新鮮に聞いていました。少し個人的な話をしますが、私の息子は結婚する前は一宮市に住んでいました。勤務が岐阜市なので、一宮市が便利だというのがありますが、親として、こちらに来ると良いなと思いますが、奥さんは名古屋で働いています。そうすると一宮は非常に便利です。犬山か、犬山以外かという単純な理由ではなくて、そういったいろんな選択肢</p>

	<p>の中で皆さん住んでいます。そこに移住ということを引き張ってくるには、もう少し明確な、分かりやすい目標があるのだらうと思います。先ほどもありましたが、30代の人にターゲットを絞ることが一番効果があるのかなと思います。後が長いような気がします。そうすると、どこの市町も同じようなことをやっていると思いますので、改めて犬山の魅力を掘り下げて、観光、農業、文化、自然とか、いろんなものがあると思いますが、それに参加できる、体験ができるとか。もっと直結していくようにすると良いと思います。行政が間に入っても良いですけど、そういうものもありませんのかなと思います。参加したい人はそのバンクに登録したら、お祭りや農業、栗栖とか今井の方に住めるとか。そういった犬山独自の魅力。たぶんどこでもやっています。岐阜県全体の移住政策を見ると、岐阜はもっと一生懸命やっています。もう少し突っ込んで分かりやすいメニューをいくつか出して良いのかなと思いました。</p>
平田委員	<p>犬山の男女共同参画市民会議の会長をしている平田と申します。</p> <p>最初の畑委員がおっしゃっていましたが、教育とジェンダー、男女共同参画なのでジェンダーが関係してくるのですが、例えば、プログラミングの教育があと数年で必修化になって、ICT化がどんどん進んでいく中で、国語力日本一を目指すというのはもちろんすごく大切ですけど、名古屋市を例に出すと、名古屋市はキャリア教育にもすごく力を入れていて、生き抜く力。時代がどんどん進んで、技術革新が進んで、そちらに「教育、教育」と言うけれど、子どもたちの心が追いついていかないというのがあって、そこにぶら下がっているのが、ジェンダーの部分もすごく関係していて、「女性が子育てをするべき」という考えが根強いので。そういういろんな問題が重なり合っていて、質の高いSDGsも、「質の高い教育をみんなに」ってでは「質の高い教育」ってなに？っていう。その辺を具体的というか分かりやすく、載せるなら載せていかないと、市民個々のジェンダーってあるので、市民一人ひとりの考えや価値観で、捉えられてしまっただけでは、結果として「住みやすい名古屋とか、そういうところで働いた方が良いよね」とか、「子どもの心の教育までしてくれるからその方が良いよね」となっていくと、犬山の魅力が外に取られていくことになるかなと。私はキャリアコンサルタントという仕事をしているものから、キャリア、生きるという部分に主眼が行ってしまうんですけど、住みやすいまちとか、移住とか、定住とかもそうですけど、人々が暮らしやすくしていくことが大事だと思っながら話を聞いていました。</p>
事務局	<p>質問等がいくつかあったと思うので、それについて順番に話したいと思います。</p> <p>畑委員から話のあった「教育のICT化」についてですが、今の戦略の構成は、犬山の中で特徴ある教育はこう進めていきます。その手段として冒頭のところで、Society5.0等を使っていきますと。教育だけではありませんが、重点事業をやっていくために、こういったものを使っていきます、という観点で書きたいなと思っています。</p>
畑委員	<p>非常に喫緊の問題だと思っているので、パンチが弱い。これでは載っているだけだという気がしてしまいます。先ほどの心の教育というところでも、小中学生のデジタル機器を使ったトラブルが非常に増えてきているので、それは常日頃、身近にあって、使いながら教えないと教えていけない。年に1回か2回学校でもやっていますが、それだけでは駄目で、学校でも家庭でも常にそういうのを触っている中で、小さいトラブルを解決していくということを考えると、そういうのをもっともっと進めていかないといけない。国語教育が大事なはずがよく分かります。プログラミング教育をするにも、その発想の最初はやはり国語なので、非常に重要だと思いますが。</p>

	ツールなので、難しいところもあるかもしれないですけど。
事務局	先ほどの副会長からあった、移住支援金の関係ですが、おそらく東京圏から引っ越してきたときに、就職の場合は100万円、創業の場合は200万円払うというものだと思いますが、先月ぐらいに担当課に聞いたところでは、0件と聞いております。私は産業課にいましたが、愛知県犬山市から、東京圏に売りに行く術というのを探らないといけないなど。いきなり東京に行って、5年以上東京に住んでいる人を100万で犬山に引っ張ってくるのは、難しいと思います。県と連携しながら、まずは愛知県に引っ張ってくることを考えないといけない。東京圏から犬山市にピンポイントは難しいので、まずは愛知県。愛知県を選んでくれた人の中から、犬山市をどう選んでもらうのか、と考えています。犬山市として、この事業をやっている理由としては、どこの自治体もやっているものだから、やらないと取り残されてしまうので、それを避けるためにエントリーしている状態です。
藤岡副会長	そういう薄まった政策では効果はないのかなと思います。愛知県に呼んでから犬山ではなく、最初から犬山の魅力を出さないと。積極的な移住政策にはならない。まだ実現はしていないけれど、三重県のあるまちでは、おいしい材料が入るので首都圏の若手の料理人を呼んでこようとか、かなり具体的な起業支援をしないと、ここへ来たらこういう起業ができるということとセットにしないと無理で、愛知県はもともとそういう起業支援に力を入れない県、どちらかと言えば就労支援ですので、犬山で何が起業できるかということがないことには、この仕組みは意味がないものになるだろうなど思っています。県と足並みを揃えたら、非常に時間のかかることだから、単独でやれることはやっても良いのではないかなと思います。犬山は東京に事務所ないんですか。
事務局	ないです。東京に犬山市役所の人間が常駐してということはないです。名古屋市や愛知県レベルだと、東京に常駐している人間がいたりしますが、犬山はないです。
畑委員	どうやってアピールしているんですか？
事務局	東京圏へアピールすることに関しては、まだ手探りの状態です。それこそこの間ニュースで話題になったようなこともあります。
藤岡副会長	例えば私だと、日本サードセクター経営者協会は大田区に事務所があります。私が思っているのは、犬山の魅力を直接大田区のいろんな場所で発信して、観光客を呼んだり、移住者を呼んだり。どこか民間組織と具体的に組んでやらないと、無理だと思います。大田区の私の仲間は、山形とやっている人がいますが、かなり成功しています。
畑委員	思いつきですが、東京にいないと仕事ができないということはない世の中なので、どこでもできると思いますが、創業支援と合わせて、犬山の優良田園住宅制度とかを合わせて体験、田舎暮らしというものを犬山の魅力として、優良田園優良住宅制度を前に出して、犬山で創業してもらったら200万円もらえとか。できるできないはありますが、そういった発想も必要だと思います。
藤岡副会長	関東圏に暮らしている人からすれば、特急電車で名古屋にもすぐ行けるし、犬山にいれば農業もやれるし、自然も豊かというのは、かなり魅力です。すごい田舎は不便だから嫌なんです。
松浦委員	愛知県の中で、そういった体験ができるとか、尾張でというふうに絞っていくところしかなくなっていくかもしれない。愛知県というくりにすると、県があまりこの辺を見てくれない気がするから。
藤岡副会長	山もあって、川もあって。

畑委員	豊田の方に行くなら犬山に。
松浦委員	尾張のなかで、自然とかそういうのが揃っているのはここしかない。
藤岡副会長	ちょっとずれてしまったらごめんなさい。前テレビを見ていたら、石川か福井なんですけど、東京にいる芸術系の大学を出たフリーでやっているデザイナーが、東京圏では食べていけなくて、市が呼んでまちおこしと一緒に起業するみたいなのがあって。例えば美容室の休みの月曜日などにデザイナーさんが個展をするとか。自分の技術をまちにいる子どもたちに提供するとか。移住してきて、その技術を地域に還元して、しっかりそこで生計を立てているという事例をテレビで見たとあります。東京圏でも、人がたくさんいるけれど人があぶれているというのがあって、特にフリーランスの人、個人事業主や芸術家。そういう人を呼んで空き家をアトリエにして、そこに市民が来て教育を受けられるとか。そういうのが確か石川か福井ですごく成功をしている。それは企業を巻き込んでやっているから、経済効果もあってというのを特集で見たとあるんですけど。
畑委員	自然発生的な話ですけど、犬山の下本町、あそこもシャッター街になっていて、ちょいちょいアーティストが住んでいます。おしゃれな看板を作る看板屋さんやグラフィックTシャツ作っている人だとか。ビルもレンタルスペースに改装してやっていたり。昭和のいい雰囲気の中なかで、アートというところで。ああいった若いアーティストが、僕の友達のミュージシャンなんかも「あそこ良いよね。スタジオにできないか」とか言って交渉しているので、そういった人をターゲットに紹介するという攻め方は面白いかもしれない。
藤岡副会長	移住政策はかなり戦略をしっかり練ってやらないとたぶん無理だと思います。一般的なやり方では無理で、自治体レベルでしっかり作らないと、表面的な物ではきっと成果は出ないのではないかと思います。みんな同じことをやっていますので。かなりピンポイントで「こういう人たち」というのをターゲット絞ってやらないと無理かなと。ニッチだけれど必ずそこを掴んでくるというやり方をしないと難しいかと。
	(中濱委員到着)
中濱委員	公募委員の中濱です。犬山市在住の共働き主婦です。 前回提案させていただいたのが、人口減少を食い止めるということで、子育てに魅力のあるまちに、ということから、子どもを育ててきた身としては、犬山の2学期制というのは非常に素晴らしいと思っていますけれど、併せて、売りに出すという意味で、センターではない各校の自校方式の給食と地産地消のものを使ってということと、せっかく名古屋経済大学の学生さんのメニューがあるので、定住と絡めて言うのであれば、子どもを育てるという意味では、食育に力を入れているというのは、一つありなのかなと思っています。
事務局	ありがとうございます。 松浦委員の発言にフォローしようと思っていたんですけど、「体験型」という発言について、「体験型観光」に今、力を入れて取り組んでいるところです。今まではお城を見て終わりとかでしたが、体験型のメニューを目的に観光してもらうことを第一歩として始めているところです。移住・定住とは離れてしまうかもしれませんが、観光客も、そこでしかできないアクティビティを求めていると。犬山はこんなことができるということから、移住・定住につながってほしいかなと思っています。
事務局	移住・定住って、働く場所がないと現実的ではないと思うところですが、立場上、私は職員の公募をして面接をしています。案外「犬山の観光施策をやりたい」、「犬山の文化財をやりたいから応募した」という人が来ます。犬山市役所に勤めたいという

	<p>人が、案外犬山市民よりも、外の人たちの方が多くて、遠いところだと神奈川県や京都から学生が応募してくれます。我々が外へ向けた特徴的な施策を展開すれば、そういう職員が入ってきます。そういう例は、大昔で言えば掛川市が、かなり先端の行政をやっている、全国から職員が応募してくると。当然遠くからの応募なので、住まないといけない。そういう事例があるので、犬山のこのレベルでも、とりあえずそうやって受けてくださるので、必ず採用するというわけにもいきませんが、そういう事例もあるので、民間の企業だとか、他の職場でも、上手に情報発信をすれば、事業展開をアピールすることで、若い人材が集まるかもしれない。起業までいくと少しハードルが高いかもしれませんが、就職先として考えれば可能性はあるのかなという感じがします。</p>
畑委員	<p>地理的に名古屋もそう遠くないので、市内に働くところがなくても、外に働きに行っても、まちに生活する魅力というか、子育てする魅力があればターゲットとして30代～40代に対してのインセンティブじゃないですけど、そういうのがあれば。それが作れないから悩んでいるんですよ。</p>
事務局	<p>そうすると、隣のまちとの競争になってしまう。名古屋に勤めて、犬山に住むのか。隣のまちに住むのか。</p>
藤岡副会長	<p>だから犬山単独でやらないと駄目。愛知県レベルでやっても、犬山に来てもらえるかは分からない。</p>
事務局	<p>何が魅力っていうのがなかなか。</p>
藤岡副会長	<p>犬山であれば、名古屋にショッピングに行くこともできるし、大口、小牧、働くところもいっぱいある。だけれど住むのは犬山なんだよ。あとは夫婦が働くのであれば、どちらかは時間に自由が利く働き方をするはず。子どもがいたら二人とも勤め人では家庭崩壊します。そうすると、フリーランスで、個人事業者で開業するとか、そういうのが手厚いとか。それであれば、関東圏からの移住を考える人があると思います。関東圏は通勤すごく大変なので。いまだに埼玉の吉川、越谷では、どんどん人口が増えている。通勤に一時間半かかっても増えている。そういう状況の中で、今ちょうど移住政策、東京都だけではなくて神奈川、埼玉、千葉の4都県だから。特に通勤に苦労している人たちがターゲットかなと思っています。この人たちが、ここであれば三大都市圏で名古屋にも遊びに行ける、仕事もある、後はフリーランスでできる環境を作ってあげて、もう一つはさっき話した教育とか。放課後児童クラブとか待機児童対策とか、低年齢ではなくて、児童期のお子さんに対する教育って大事だから、そこをはっきりと出すことが大事だと思います。それを明確に出している自治体ってあまりない。</p>
畑委員	<p>話がずれるかもしれないですけど、ローカル5Gってどうなんですか。24日から申請できるようになって、「自治体でも」という話が出ていますが。起業するとかそういうところでいくと、スモールオフィスだとかフリーランスの人からすると魅力的な話かもしれない。</p> <p>5Gという通信規格があるんですけど、ドコモとかソフトバンクとかが基地局を立てていくんですけど、「ローカル5G」といって、自治体単位で、限られたネットワークを作れるんですよ。例えば、この庁舎を5Gにするとか。</p>
松浦委員	<p>5Gにすると私の明日からの生活はどうなるんですか。</p>
畑委員	<p>明日からの生活というか、そういう研究者が来られるということです。起業ということですが。全くノータッチですよ。</p>
事務局	<p>市長も関心はあるとは思いますが、ソフトバンクが来て話していたのが、まだここ</p>

	<p>数年は一方通行だと。まだ双方向にはならないということで、限定されますよというのがソフトバンクの説明でした。双方向でフルスピードで通信ができるようになるのは、もう少し先になると。今巷で言われているほどすぐに何かができるわけではない。遠隔操作で手術ができるとか、自動運転を補助するだとか。畑委員が言われるのは、そういうことを研究する人だったり、そういうネットワークを整備することで、やって来てくれるんじゃないかということですよ。</p>
畑委員	<p>田舎でそういうのがあったら面白いじゃないですか。今井なのに5Gとか。</p>
藤岡副会長	<p>私は以前大口町に住んでいたものですから、IPフォンがスタートの時に大口町で実証実験していました。あっという間に広がって、あまり実証実験の意味はなかったかなと思って。ソフトバンクの体制の問題もあるかなと思います。あそこの体制と、マイクロソフト社、ドコモ、NECとか、体制が違うから、よく研究しないといけないかなと思います。</p>
畑委員	<p>5Gは国の施策なので、突然くる可能性もある。</p>
藤岡副会長	<p>何か移住政策でかなり実効性のあるものをやりたいということであれば、それをしっかりと練らないと駄目かなと思います。</p>
事務局	<p>色々お話を聞いていて、色々なアイデアをいただいたんですけど、お金がかかる話でもあるので、全てをとることができないもので、その辺も踏まえながら。「犬山はこれだ」というのを何にするかということだと思うので、そうなってくると、教育なのか、子育てなのかという話になるのかな。そういうのもって東京から呼んでくるという話になっていくのかなと思います。</p>
藤岡副会長	<p>そうですね。</p>
畑委員	<p>30代～40代というのはやっぱり「子育て、教育」というのは直結するような気がしますけどね。</p>
平田委員	<p>「子育て」って、何歳までを「子育て」と言うんでしょうか。実は男女共同参画で、「トーク！トーク！トーク！」とあって、さんにいれでテーマに沿って話をするのですが、この間、女性の働き方というのをテーマに話していたんですけど、「子育てっていったいつまで？」という話が出ていて、犬山の子育てというと、さんにいれを中心にして「にこっと」をやったりして、割と未就園児の支援は拡充している印象はありますが、児童期は児童期で母親たち、親たちは子育てで悩みはたくさんありますし、中学生は中学生で悩みはあるし。高校生は高校生で悩みはある。というところで、何というかぶつ切り教育になっている感覚が、いろんな人から話を聞くとあります。子育てというところまで終わってしまうけれど、一貫して社会に繋いでいくところまで、子育ては子育てだよ、教育もそうだよ、この期間だけではなくて、長いスパンで、その子が成人していくまでの教育スタイルだったり、子育てというもののあり方をやっている都市ってあまりないです。さっきチラッと行ったけれど、名古屋はそれをやっている。幼稚園、小学校、中学校、高校の各学校に専門家を入れて、生きる教育の専門の支援をしている。市が予算をつけて、これを去年から始めています。成功しているかどうかは分からないですけど、それによってIT的な、技術的なことが進んでも、心はそっちでフォローしてくれる。将来働いていけるための力をつけるとか。というようにいくつかの柱をもって、長いスパンでやっている。大学は大学でまた違うとは思いますが、とりあえず生まれてから高校までという長いスパンで子育て支援と教育をしている。それはこの前話があって「中学は中学で子育てだよ」、「高校は高校で子育て」と各年代のお母さんから話があって、そういうつなぎ支援、つながっている教育というのがあれば、それが犬山の魅力にもなるのかなと思</p>

	います。
藤岡副会長	基本的な考え方はまるっと共感するんですけど。あとは移住政策と考えると、分かりやすさって大事です。「こういうことだから来ましょう」という。来てみたら切れ目のない支援があって、子どもの発達保証になるとか。動機づけとしては、かなり分かりやすい発信をしないと、なかなか移住はしてこないと思います。
事務局	移住だけではなく定住もお願いします。移住というと、呼んでくるばかりのイメージがしてしまうので。犬山の人に、そのまま住んでもらうよというのも大事だと思います。
藤岡副会長	私が言っているのは、分かりやすく発信しないと、動機づけにならないというか、そこが難しいところです。政策を立てる方は非常にトータル的な、一番大事なところを外さないように、政策を実行していくということは大事ですが、発信するときにどういうやり方をするかということと両方だと思います。
平田委員	結局受け取るのは人なので、そこですよ。
藤岡副会長	未就園児、未就学児の支援に偏っていることは間違いないですね。
畑委員	間違いないです。大学1年生、中2、小6といろんなタームの子育てをしているわけですけど、なかなか幼保無償化を含めて、未就園児に対して国も支援が大きいけれど、中学、高校とお金もどんどんかかってきて、悩みも色々出てくるので、そういったところをターゲットにして、切れ目のない「子育て、教育支援」というのが、具体的に、分かりやすくというのは難しいところだとは思いますが。
平田委員	切れ目のない支援というのを、どこの自治体もうまくいっていないと思うので、そこらへんがうまくいくと良いのかなと思います。
松浦委員	先程専門家を置いてというのは、学校の中においてという事ですか？その方は子どもの相談に乗る？保護者も？
平田委員	学校の中に常駐です。お母さんの相談も。
松浦委員	お母さんの相談を受ける人がいた方が良いような気がします。お母さんはずっとお母さんだから。
平田委員	学校はスクールカウンセラーはいますが、スクールカウンセラーはあくまでも「不登校になりそうだ」とか何か問題を対応するので。
松浦委員	学校を単位にすると切れてしまうけれど、お母さんはずっとお母さんだから。
平田委員	名古屋でやっているのも、ライフキャリアサポートという事業では、お母さんの支援もしている。
松浦委員	だいぶ話がずれてきているのは分かるんですけど、子育てとか介護とか、今、介護している側のケアがとても大事になってきている。だから、今のお母さんの支援が大事になってくるのかな。大分ぼやけてきてしまったけれど。
藤岡副会長	今は、児童福祉という言葉は使わない。子ども家庭福祉と言って、家庭支援です。そちらの方が大事なんです。そもそもが児童福祉改正の前の言葉があちこちで使われているということが課題なんですけれど、難しいですよ。 キーワードは「教育」ですかね。
平田委員	不登校の児童も120人でしたっけ、犬山。
藤岡副会長	今度、東京シューレ、NPO法人が学校法人を作って、不登校の子の私立の小学校を作ります。そういう動きもあって、学校自体を変えようという動きもあります。私立の小学校というのは魅力的だと思いますよ。
平田委員	小中で120人くらい不登校がいるので、結局そういう人たちが就労できないとか。引きこもりになるとか。

【Bグループ】

事務局	<p>よろしくお願いします。先ほどのお話の中でもありましたが、協議していただきたいものとしましては、定住促進事業について、戦略として目玉になるもの、先ほどの奨学金の話も含めて、お話いただければと思います。実現にあたって戦略に記載するかどうかは、先ほどの奨学金をやらないというところと同じですけれども、膨大なお金がかかるということもありますので、事務局で考慮して判断させていただきたいと思います。全く新しいことでも結構ですし、資料5の中で、こういう形にしたい、これをもっとやるべきだ、というものがあれば、ご意見いただければと思います。まず初めに、一人2分程度でまわさせていただいて、そのあとクロストークのようなことができればと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
中村（貴）委員	<p>先ほどの奨学金補助ですけれども、個人的には効果が薄いと思っていて、これに代わるものを考えた方が良いでしょう。犬山市の特徴、人口はご存じの通り微減です。昨年と今を比べると300人前後減っている。73,893人くらいだったかな。しかし、面白いのが、世帯数はすごく増えている。今32,000を超える勢いで、それは個人的には核家族化が進んでいることがあると思います。犬山は市街化（区域）が少ないけれど、家を建てると売れている。戸建てにしても土地を買って自由設計でも。私、五郎丸に住んでいますが、相続して更地にすると、五郎丸は一つの土地が広いものですから、そこにハウスメーカーが4～5軒建てて、すぐに売れる。それはなぜかという検証と言うか、どうして犬山で家を建てるとすぐ売れるのかを考えていけないといけない。特に子育て支援に力を入れているので、保育園、幼稚園が無料化したのと合わせて、犬山の子ども医療制度は中学3年生まで医療費無料、高校3年生までは一割負担。若い夫婦に来てもらう施策が実を結んでいるのか、その辺を検証していける施策を見出していければいいのかなと思います。短い時間なので、ポイントを絞ってお話させていただきました。</p>
水内委員	<p>犬山の人口の年齢の割合とかが頭に入っていないので分からないのですが、どういう人に残って欲しいのかということから考える必要があると思っています。もちろん生産人口とかいう話もあるかもしれませんが、まちの活力とかを考えると、若者、もしくはお年寄りも含めて暮らしを守っていくという考えもあるかもしれないですけれども、そのあたりをどこに定めるかによって施策は変わっていくと思いますし、どこに定めるかという犬山市の総合計画を実現させるためには、ステークホルダー、こういう役割の人たちに来て欲しいという設計が必要かなと。全体設計の中でどういう犬山市の姿を目指すのか。それに紐づいてどういうプレイヤーが必要なのか。そのプレイヤーを生むためにどういう施策が必要なのか。そういう流れで整理をしていくと誰でもいいから来てほしいということにはならないと思います。データがないので具体的には言えませんが、そういった検討が必要だと思いました。</p>
石田委員	<p>石田です。先ほどの「人口は減っていく、世帯数は増えていく」ということで、どんどん建売は売れていく、その現象が何を意味しているかということですが、いずれにしても、若い人たち、子育ての助成をしていくのも一つの手です。私も高齢者の一人ですが、周りを見ると、ほとんどが若い人は外に出て、高齢者の世帯数が多い。調子が悪くて、といろんな施設に入ると、施設にもよりますが、全くお預けだけで、機能回復だとか、いろんな保険の関係もあるのですが、ただ預かってもらうだけの人と、色々リハビリとかをやって、少々ぼけていたのが、預かってもらって、訓練したら持ち直してきたとか。動けなかった人が動けるとか。そういう話を聞くと、</p>

	<p>「預かってもらえれば良いわ」で済ますのではなく、機能回復につながることを、おしゃべりすること、幼稚園、小学校の子どもとの交流とか、そういうことも老人対策として、施設と学校、保育園、幼稚園とのマッチング、交流なども施策の一つとして、積極的に取り入れる必要があるのではないかと思います。病院や施設からすると、おとなしくベッドに寝ていてもらえれば職員の手間もかからない、事故も少ないという裏話をする人もいます。そうではなくて、積極的に手足を動かしたり、おしゃべりすることを、一つの方針として積極的に働きかける計画も必要ではないかと思います。</p>
嶋田委員	<p>遅れてきまして申し訳ございません。</p> <p>先ほどの戸建て住宅が売れるというのは、私も不思議な感じ、と言っては失礼ですが、どんな人が買っているのかを調べると何かヒントがあるのかなと思いますので、ぜひ調べていただきたいと思っています。</p> <p>私はいろんなところの交通計画とか、都市計画をやっていますが、私が南区の大学なので、海部地域や知多半島の都市計画が多いのですが、そこ行くと、防災ばかりです。ここに来ると全然トーンが違う。いわゆる地理的条件で言うと、安心安全、防災的に心配はいらないというのは揃っている。安心安全というところで、愛知県内では非常に恵まれているので、それは魅力の一つだと思います。他もそうですけれど、いかに移動しやすい環境にあるかというのが重要かと思っています。ただ住むことはできませんので、どこかで働いたり、あるいは定年されている人は活動したりというところで、特に公共交通、いわゆる足が大事で、徹底的にやった方が良い。犬山市は徹底的にお金をかけるとか。地域公共交通会議に出ていても、いろんな市町でそんなところに「お金を使って」という話は出てきますが、大したお金ではないです。徹底的に域内の公共交通に力を入れて、移動しやすくして、後は地理的条件が揃っていて魅力がありますので、山もあるし観光地もあるし。後は移動しやすくすれば、仕事とかも行きやすくなって、定住も促進されると思っています。</p>
佐々木委員	<p>戸建ての家が建っているというのは、住んでいても次々に家が建っているというのは感じますが、他の市町でも建っているし、犬山だけが目に見えて多いのか調べるのが基本になるかと思いますが、実際、どうして「犬山に家を建てようと思うのか」を考えると、最初に賃貸に入って、犬山で子どもが生まれて、そのまま犬山で暮らしたい、定住しようと思うのだったら、新婚さんが入れるような賃貸一布石になるようなものがあるのが必要になってくるのかなと思います。子育て世代ということと言うと、お母さん同士の口コミというのはSNSより絶対に力があると思うので、「この市の保育園は入れない」、「保育園は入れてもその後の学童が入れない」という話をよく聞きます。「この市は子育て世代が増えているのにそれが追いついていない」とか。住んでいる人の意見があつてこちらとも言いますがいい意見というよりは、こういうことで困っているとか。そういう意見を参考にしてどこに住もうかを考えると思うので、保育園の入りやすさとか。あまり言うてはいけないと思いますが、犬山市は入りやすいと思いますが、最初に脅されるんです。「入れるか分かりません」とか、「第3希望まで書かないと、どうなるか分かりません」みたいなことを言われて、最初は怯えながら「私は本当に復職できるのかな」という気持ちになるので、その辺を優しくして欲しいなと思います。これはどこの市町の行政も一緒かなと思いますけれど。ちょうど出産や復職のデリケートな時期で、「みんなあの時おかしかったな」という思いがあるかと思うので。あと、産後ケアの事業というのが具体的にどういうことか分かりませんが、保健所の関係でも産科のクリニックと、保健師さんとの連携がちょ</p>

	<p>うど言われている時期で、それに付随してこういう話になったのか、独自で挙がっているのか分かりませんが、保健所とかクリニックとかどこでもそういった心配があつて、個々であがっている問題を、個別で会議をするよりも、そういうものがつながっていくと無駄もないし、お金の流れもスムーズなのかなと思いました。</p>
鈴木会長	<p>中村さんが口火を切ってくれたので、それを軸にして話をすると、以前調査したことがあって、銀行と共同調査をして、名古屋よりも東側の通勤圏において住宅は人気が出てくる。これはJRの戦略も非常に大きく影響していますが、名古屋を起点として名古屋から30Km圏から80Km圏以内のJRの管轄区域の中で、当然利便性をJRはどんどん良くしていく。そうすると、安城、刈谷、その辺りから住宅がはけていってそこが済むと、豊橋までの住宅需要が伸びる前に、今度は西側へ需要が伸びていきます。犬山、岐阜、場合によっては大垣とかは、名古屋までJRや名鉄で、通勤通学の便が良いところなので、一通り東側ではけて、さらに需要があるところら来ると。一般的な傾向ですけど、犬山が増えているというのは、東側の需要が超えた部分がこちらにあふれ出ているというのがあると思います。以前、調査したときにそういった傾向がありました。</p> <p>ただし、ミクロ的に言うと、やはり二つ理由があつて、一つは、家を持つ、車を持つというのは愛知県民にとっては非常にステータスでもあるので、家がマンションもしくは戸建て。マンションがなかなか入手できないと、建売で2,000万円前後のものに手を出して、買い替えるという需要が多いと聞きました。ですから、そういうところが一つはあるだろうと思います。住宅需要というのは一つはステータスというのがあるでしょう。だから、とにかく家庭を持ったら次は住宅を持ちたいという希望があるのかもしれない。</p> <p>もう一つは、金融機関の融資や資産運用についての積極的な攻略があつて、我々一世代ではなくて、親も含めて、「2世帯で住宅を持ってみませんか」という呼びかけがありますよね。だから、住宅を持つ場合は、本人の貯蓄だけではなくて、親にいくら出してもらえるかということが前提で、そうすると親が近隣にいればそこに本家を置いておいて、近くに新築を持つこともできるということで世帯が増えていくということがあつてと思います。</p> <p>犬山や名古屋より西側の名鉄及びJR沿線で戸建て住宅需要が増えるというのはだいたい予想された通りであると思われれます。あとはそういう人たちがどう地域に取り込んでいくのか、が大事な戦略かなと思いました。その時に大事だと思うのが、ダブルケアやトリプルケアをさせないということが大事かなと思いました。ダブルケアというのは、子育てと介護、それから看護。これを同時にしないといけない。結婚して出産をする、子どもを持つ、家を持つ時期が後ろにずれてきているので、自分の親、相手の親の介護と子育てが重なります。そのダブルケアを何としても回避して、経済的な負担を少しでも回避して、地域との関わりが少しでもできるような、お母さんたちのネットワークが安心してとれるような環境づくりも大切で、そうすると、お母さんたちの強いネットワークの中で本音のところ共々される。先ほどの話で、「保育園に入れるか入れないか」。それは私のところにも聞こえてきて、息子の奥さんもそのことでどこに住むとか住まないとか、非常に強くアピールしていました。ですから、ダブルケアをしない、させないということと、いろんなネットワークを作つて、安心してここに住もうと思える環境づくりというが必要で、その時に良い情報を流してあげることが大切だと思いました。ただ、犬山の場合は先ほど話したように、ダブルケアを極力抑えていくような環境づくりを政策的には打つて出ているようなので、今後</p>

	<p>はトリプルケア、つまり子育て、介護、働くということは同時に起こってくるわけです。先ほど、復職とおっしゃいましたが、この地方の統計、就業構造を調べてみても、20代～40代前半で復職を希望して、実際復職する女性の率が伸びています。ですから、その道を阻害しないように、サポートしていくためにも、何らかの対策をとるということは大切かなと思います。</p>
事務局	<p>みなさんの一通りのご意見をいただきましたが、さらに深めたいようなことがありましたら。</p>
中村（貴）委員	<p>鈴木先生の、戦略的定住は面白い視点だなと思いました。犬山がなぜ新しい家が売れるか、その理由はいくつかあると思いますが、五郎丸地区周辺ですと、村田機械という大きな企業があります。僕は毎年子ども見守り隊でお母さんたちの旗当番で知らない人が増えて、逆に私は大丈夫かなと思う時もありますが、お母さんたちに聞くと、「村田機械なので、近くで通勤が短くて済む」と。上野地区もハウスメーカーが進出してきてすぐ売れてしまう。やっぱり東洋紡がある。犬山地区は、大きな会社の社員さんが新婚のときに賃貸で犬山に住んで、子どもが生まれたからもう少し広い家に住みたいというので、毎月の家賃を払うのであれば、住宅ローンで使おうというのもあって、賃貸から戸建てに変わる人も多いと思います。犬山の戦略として先ほど水内先生がおっしゃっていた「ターゲット」、若い夫婦を狙っていくのか、高齢者が住みやすい犬山を目指していくのか。ターゲットを幅広くすればいいのですが、犬山市は財布の中身が決まっているので、お隣の小牧や春日井市とは事情が違うので、やはり身の丈に合った施策、例えば「母になるなら犬山なんだよ」というようなキャッチフレーズ、シティプロモーションをして、外からの人を呼び込む、中の人を外に行かない、ダブルスタンダードで政策を積み上げていかないと。自然減は仕方ないですが、少子高齢化で今高齢者が28～29%くらいでしょうか、他市町に比べて高齢化率が高いのかなと思います。せっかくソフトバンクと提携しているので、上手くデータをとりながらこの先どの方向に進むのかを、戦略的に進めていかなくてはいけないのかなと思いました。</p>
事務局	<p>今のことを事務局から。家が売れるということは、愛知県としてはもうしばらく人口が増えるというところがあって、今でも市町村で伸びているのは、名古屋の東側で、長久手や日進は当分は伸びていく。もうしばらくは愛知県全体として伸びていく。住むところで言うと、犬山は名古屋駅まで特急で30分かからないので、住むところがあればまだ売れていくだろうと我々は考えています。ですので、市街化区域で大きな家だったところが分譲すればたくさん家が建つとか。低未利用地が活用されていけば、犬山はまだまだ人口が伸びるのではないかと考えています。後はイメージのところで、犬山は子育て施策を頑張ってはいます。しかし、それをこの間もありましたが、うまく発信ができていないので、その辺をやっていきたいと思っています。</p>
鈴木会長	<p>そのことと関係して、愛知県で2040年の段階で人口のピークを迎えるまちが二つあって、一つは愛知県の西三河の幸田町。そしてもう一つは大口町。この二つが2040年に人口のピークを迎えて、徐々に減っていく。つまり、2040年までは伸びていく。大口というのは犬山の隣ですよ。この居住に対する可能性と距離感というものから、どんな戦略をとっていったらいいのか。今の人口が伸びていくというのは、先ほどの地元の企業で働いている人が結婚して、今後お子さんを作って、そして新しい若い世代として伸びていくというのがしばらくは続く、というふうにみているようです。</p>
事務局	<p>大口町は、働く場所があるということと、区画整理で新しい住宅地が供給されているということが特徴としてあると。幸田町もおそらく同じですよ。</p>

鈴木会長	同じです。
石田委員	住宅が増える、人口が増えるのは良いことですが、今この付近で言われているのは買い物難民です。来年2月に清水屋が閉店しますが、私は上野なので、扶桑との境です。うちからマックスバリューは5分以内。あそこはいつ行ってもいっぱいです。そこでよく見るのは、犬山の街の中の人たちがよく扶桑に買い物に来ています。犬山の街にはまだ清水屋があって買い物ができるけれども、扶桑まで車を使って買い物に行く。だから、街の中でもっと買い物ができる環境づくりも必要ではないかと思います。
佐々木委員	あの辺の人が、歩いて行ける場所がない、カネスエまで一回歩いて試してみたという人がいましたが、雨が降ったら行けるのかとか、コミュニティバスを使えるのかとか。ましてやご高齢の人が一日に4本しかない路線を乗り継いで行けるのかとか。やっぱり買い物が大変。自分は車があるので、市外に買い物に行ったりとか。徒歩圏の人たちは本当に困っていると思います。
嶋田委員	これから自動運転技術とかMa a Sが流行ってくれば、色々とも問題も解決するんでしょうけれどまだ早いと思います。ですから、先ほど言ったように、公共交通にもう少しお金をかけても良いのではないかなど。基本的に、免許返納もしたいけれど、結局はその後の生活が不安で、なかなか返納ができない人が多いと思いますし。やっぱり足って大事だと思っています。自動運転を待っていてもあれですしMa a Sと言っても、そもそも色々な手段がないと、そもそも基盤がそろっていないと駄目だし。まずは公共交通の基盤を作る。コンビニやお店が自動で回っているというような絵を描いていますけれど、将来的にはそうなるのかもしれないですけど、今はまだ。ですから、ここをどう凌ぐか。
事務局	昔は足がない人の代わりに近所の人が運転して買い物を一緒に行ったりとか、あったと思いますが。
嶋田委員	田舎に行くと、白タクをOKにしている。運輸局も認めてしまっている。タクシー会社もないし、バスはとっくにアウトしてしまっている。もう足がない。だからボランティアで、ガソリン代を受け取るくらいはOK。犬山にタクシー会社がどれくらいあるか分からないですけど、使わないとアウトしてしまいますので、皆さん使った方が良いでしょう。お店も、犬山市のお店で買ってあげないと、どんどんつぶれていって、結局自分たちも不便になるので、中で育てるといいます。タクシーも貴重な公共交通機関なのでみんなで使いましょとか。運転手不足という別の問題が出てきますけれど。
鈴木会長	<p>公共移送会社に対して市が補助を出すとか。働く人たちの給料が安い、1ヶ月だいたい15万円あるかないか。そうすると20代、30代は就職できない。我々の親世代が運転してくれているという、70過ぎの人ばかりですね。</p> <p>先ほどの基盤の話と移動の自由を極力みんなの力で、協調して作り上げていく。実際にNPO等が移送事業をやっていくケースが多くなりました、かつては過疎地有償運送や福祉有償運送などで、移送会社といかにNPOに運転させないかという審査会をやっていたけれど、今はそういう事がなくなりました。やはり協働して移送移動の自由をみんなで作っていく。例えば各務原には、地域ボランティアと協調して一生懸命お客さんを掘り起こしながら、お客さんの家事サービスまで代行をしている、コミュニティタクシーだったかな、があります。社長さんの強い社会参加への理念がタクシー運営に反映されて、非常に支持があつたという。東日本大震災の時には、コミュニティタクシーのやり方を向こうにも転用して、被災地域の復興をタクシー会社が移動をサポートしながら行う新しい事業を起こしたということがありました。</p> <p>先ほどの働き続けるということ、そして家計収入を確保していく。今、実質賃金が</p>

	<p>伸びないので、共働きをしながらでも家計収入を伸ばしていきながら夢を実現する道を、犬山だったら応援できるという、求職に対するサポート体制をしっかりとしたほうが良いと思います。</p> <p>それから、育児と子育て環境が大口町には負けないということをもっとアピールする必要があるのではないのでしょうか。先ほどの「母になるなら犬山市」というのは良いキャッチフレーズで、その実力をきちんとつけないといけないと思います。</p> <p>もう一つは、介護からの解放。父親、母親の認知症。健康寿命云々と言われますが、認知症を患って、介護が必要な世帯が多い。自分の親、パートナーの親の介護に入ると、もう子育てはできないし、仕事にもつけない。とにかく施設-グループホーム、デイサービス-に頑として行こうとしない、そういうケアが必要な人たちを見つけ出して、みんなで連れ出して開放する。そういう戦略を打ち立てて一回やってみる。特区を作ってやってみるという方法もある。</p>
石田委員	家でテレビだけを見ているという人も多い。だから、孤独で、しゃべれないし、動かないので悪循環。
鈴木会長	僕の父親も要介護2にも関わらず、行かない。そうすると家の中で気まずい環境ができてしまう。同居家族が出かけられない、ということが起きている。そしてお金を使う機会も逃してしまっている。健康的な生活ができないということが起きてしまう。そういう世帯が多いと聞いています。実態は分からないけれど、やはり見つけ出してみんなで助けるというのは必要だと思います。どうですか？
中村（貴）委員	行政も民生委員さんと協力して、外に出るいきいきサロンだとか、らくらく体操だとか、外へ出そうという施策を打ってはいますが、年をとると意固地になるのでしょうか、外に出ない傾向が。人によるとは思います。
石田委員	性格にもよります。私も年が明けると84になりますが、いろんなところにお呼びいただき、一昨日も上木子ども未来園で子どもたちと600本ほど玉ねぎを植えました。「モノ好きだな」と言われますが、「小さい子を対象にして、自分が刺激をもらって、生きがいにさせてもらっている」と言っています。自分なりの解釈で、一つの元気の源だと思っています。
鈴木会長	「生きがい得るなら犬山市」というのは良いですね。
水内委員	最近聞いた面白い事例で、大牟田市ではデイサービスを提供している会社と、ヤマト運輸が提携して、メール便を配達して回るそうです。認知症を抱えている人ですが、地域の人にも顔が知ってもらえて、働いて社会への貢献もできる。社会に自分が役に立って、仕事をしながら社会に入っていける機会を、事業者と一緒にやっているという事例があって、その収入がきちんとお年寄りに行くという仕組みを大牟田市は作っています。最近では、ヤマトだけではなく他の事業者にも広げていっているみたいですが、単にケアをするだけではなく、その延長線上で社会の中に入り込んでもらうと言いますか、それで地域での見守りも同時に起こっているという事例が面白いと思いました。いろんなやり方があると思います。
中村（貴）委員	キャッチフレーズが今の時代が大事。犬山市はこれだというワンフレーズがあれば。優しく、分かりやすく、親しみやすい、これでこの施策だと感じてもらえる、想像してもらえる、夢のあるネーミング、キャッチフレーズを考えてもらえればと思います。先ほどいった「母になるなら犬山市」は他市町を真似ただけなので。「母になるなら流山市」というのが本家です。

(移動)

鈴木会長	それでは、グループ内での発言はすべて事務局で把握しております。そういう前提
------	---------------------------------------

	<p>で一人ずつ今日の会議の感想をお願いいたします。</p>
石田委員	<p>皆さん建設的なお話をさせていただいて、自分ながらに感じたことがたくさんありました。総合的にあれもこれもというのはなかなか答えが出てきません。自分が関心のあること気になることでしたら、どなたも話ができるのではないかなと思います。高齢者のことで話をしましたが、高齢者がいつまでも元気に自分のことは自分でできるというようなこと一つ、子育てのことも必要ですし、地域開発も大切ですが、そういうことも目標の一つに掲げてもらえたらありがたいなと思いました。</p>
佐々木委員	<p>グループの中で、移動の手段、保育園の入りやすさだとか、暮らすうえでの状況とがいかにか整っているかが、家を建てたり、家を借りたりというのが大事なポイントになると思うので、そういうところが「安心して暮らせます」とどれだけ出せるか。</p> <p>また、世代間交流は、犬山はしやすい環境が整っている気がしますので、核家族化が進んでいる中でキーポイントになると思います。お話を聞いた中で、空き家バンクの話は何年か前から言う人がいて、気になっていたんですが、市でやるからには、賃貸会社とは違う毛色が出せていけたら良いのかなと。調べていると、すごく安い値段で、庭付きの家が借りられたりするの、あまりその情報が出てきていない。家を建てる前に、家で暮らすことを体験してもらったり、広い土地を生かせるところだと思うので、活用できるのではないかなと。自分もマンションに住んでいますが、庭の手入れをどうしたらいいのか、いくらかかるのか、そういったことがわからないので、そういうサポートができるのか、入った後の支援をしてもらえると。相談でも良いと思います。こういうところに相談して、「お金を払うとシルバーさんがやってくれる」とか、情報提供があると、すごく使いやすいのではないかなと思いました。</p>
中濱委員	<p>先月に引き続き、提案をさせていただいたのは、給食を中心とした食育に力を入れているというところ、コストの面と、地域の農産物の利用、それから、学生を含めた人材のマッチングとかが、一番実現可能なのではないかなとっております。途中からの参加で、前半のお話をお伺いできませんでしたが、お伺いした話で、どれも良いと言ったら語弊がありますけれど、何か一つ「移住・定住」についてやり始めてみることは大事なのではないかと思っております。</p>
畑委員	<p>今回、移住・定住をテーマについて話をしている、犬山市はターゲットを30代～40代という中で、話は色々出てきましたが、トータルして言うと、30代～40代という子育て世代という事もあり、教育というのが分かりやすいのではないかなと。私自身ICTが専門というのがありますが、国語教育が非常に重要なのはわかりませんが、Society5.0が載っていますが、中に具体的なことが載っていなかったもので、それを載せたらどうでしょうかと意見させていただきました。皆さんの話を聞いている中で、「なるほど」と思ったこととしては、子育て支援というところでも、未就学児というところが多いというところで、小学校、中学校、高校、どこまで行っても子育てなので、社会に出るまで切れ目のない子育て支援、具体的な策というのは難しいところだと思いますが、そういったご意見を聞いて、「なるほど」と思ったところです。</p>
中村（貴）委員	<p>私は定住人口促進のポイントに絞って発言をさせていただきました。今、犬山市は人口が微減なのに世帯数は増えている。家を建てれば買ってもらえる、それはなぜなのかということを経営的に調査研究していく必要があると。色々皆さんおっしゃいましたが、子育て支援、子育て世代を引っ張ってくるのか。その中で、生産人口は減らさず、上げていかないといけないと考えていますので、そういった点に絞っていかにか犬山に来ていただく、住んでいる人が犬山に定住していただくということを戦略的に考えていかないといけないなと考えています。その中で、ネーミング、キャッチフレ</p>

	<p>ーズを考えて、そのワンフレーズで「犬山ってこんな素敵な街なんだな」、「住んでみたいな」と想像させるようなネーミングキャッチフレーズを考えて、例えば「母になるなら犬山市」みたいな、全国的に注目されるような施策を打って欲しいなと思いました。</p>
平田委員	<p>移住・定住を謳っていくにしても、具体的に示していくことの必要性ということが、色々と話で出ていました。先ほど畑委員からお話がありましたが、子育てというどうしても乳幼児期、未就学児にポイントが置かれるので、そうではなくて、将来に向けてのつなぎの支援、社会に向けての切れ目のない支援をしていくというのが、移住・定住を考えていく上でも必要なのではないかということ。あと、教育がどんどんデジタル化が進んでいって、技術革新が進む中でやはり心の教育も必要なのではないかという話をしながら、いかに市民、外から来る人を増やしていくか、先ほどおっしゃられたように、具体的に示していくというのが必要で、色々考えないといけないかなと思います。成功している事例などがあるので、その話もしつつ、これから住みやすい犬山をもっともっと作っていったら良いなと思いました。</p>
水内委員	<p>移住・定住をいかに促進するかという話から始まりましたが、移住定住といういかに生産人口を獲得するかということが主になってしまいがちですけど、必ずしもその視点だけではないのかなということも勉強しました。犬山のまちが今後どのようなまちになっていきたいか、まちは人でできているわけですから、戦略的に考えることもできるのではないのかと思いました。例えば、犬山の強みである観光というところをモットーとして、事業者を積極的に取り込むことによってまちの魅力が上がり、結果として生産人口、若い人たちの移住を増やす。もう少しダイレクトではないやり方もあるのかもしれないと思いました。</p> <p>これは感想になってしまいますが、「いろんな施策はやっているんです」と。「それがなかなか伝わらない」という言葉もあって、確かに色々見ていると、頑張っているがそれが伝わらない。シティプロモーションという言葉が出ましたけれど、どこにどのように伝えていけば、犬山の取組が伝わるのか。その市のイメージを、ある一点を超えると「犬山ってこういうまちだよ」ってイメージがつくのでしょうか、そこまでをどう押し切るかがおそらくシティプロモーションで大事だと思いますが、それがどこにあるのか。今日聞いた限り、色々口コミで広まっていると。そこがもしポイントでそこをやっていくということもあると思いますし、施策と同時に、伝え方がすごく大事だと思います。</p>
松浦委員	<p>Aグループも移住・定住がほとんどでしたが、移住・定住をよく考えてみると、「住みたいまちかどうか」。住みたいまちをどう作るかということ、今のターゲットからいくと、教育、子育てのウエイトがかなり高いだろうと思います。ただ、教育とか子育てというのは分かりやすいキャッチフレーズ、プロモーションを打ちにくい。その中であえて分かりやすい表現を考える必要があると思いました。私は子育てにしても、高齢者にしても支える人がいて成り立つものだと思います。むしろ支える人たちが悩んだり、苦しんだりしていることが多いので、私が勝手に考えたフレーズは「お母さんを孤立させないまち」とか「高齢者を孤独死させないまち」とか。フレーズにならないことは分かっていますが、それくらいの分かりやすさがないと、伝わりにくいと思います。</p>
嶋田委員	<p>私はBグループに入って、移住・定住について色々意見を述べさせていただきました。まず冒頭で、他の地域から犬山を眺めてみると、災害に強い安全安心な地理的条件が揃っている、県内では恵まれた地域で、それが犬山の魅力ではないかと。ただ先ほど</p>

	<p>から色々なご意見が出ているように、魅力ですが、住んでいる人から見ると当たり前になっているのかなど。もっと移住・定住の面ではPR出来るのではないかと、はたから見ると思います。</p> <p>自分自身の意見としては交通に絞って意見を述べさせていただきましたが、日常生活の中で、通勤・通学をはじめ買い物とか、やはり移動を伴う。そういう移動手段というか、交通基盤を徹底的に揃えておくことが定住の条件でないかと思えます。特に最近では、地域公共交通会議をどこの市町も持っていますが、結構ケチくさい議論になります。お金がかかるので、税金を使うので、例えばバスを運行することについても、移動にもう少し税金を使っても良いのではないかと。道路整備には結構お金を使いますが、ヨーロッパの方では民間が公共交通を提供していたり、国が社会基盤としてかなり税金を使いますが、日本だと一民間の交通事業者が税金を使うとすると、使えないとか。公共交通、バスとかは社会基盤という意識はあまりないので、税金があまり使われていない。ただ、そこって生きていく上での条件にますますなっていく、車に乗れるうちは良いですが、だんだん高齢になると乗らない方が良いです。そういう意味では、犬山では早めに社会基盤の一つとして整えていく、それが住みよいまちになって、定住促進になるのではないかと思いました。交通に絞った偏った意見になりましたが、交通をもう少し頑張りたいと思いました。</p>
藤岡副会長	<p>Aグループで議論した内容は、皆さんほぼお話をさせていただいて、特に移住・定住施策について議論をしました。移住に関して私から、移住支援金とか、起業支援金のことを聞いたら、現在、愛知県では実績はないということと、愛知県にまず呼んで、それから犬山市に呼ぶという話がありました。私の個人的な意見ですが、そんな生ぬるいことを言っているのは駄目だと思います。犬山に呼ぶんだったら、犬山が積極的にやらないと。犬山が本気でやるのであれば、関東方面にアピールした方が、はっきりすると思います。あとは移住・定住政策でかなり議論をしまして、中身はそれぞれお話をしましたが、私はこの議論はとても面白いと思いました。こういう問題解決のために、具体的に何をやったらいいかという、戦略を議論するという、リビングラボという手法がありますが、自分たちで具体的な戦略を出していくということが大事ではないかと思っています。KPIもそうですけれども、PDCAサイクルは改善のためのサイクルですので、最近ではOODAループとあって、意思決定のために素早く現場でいろんな仮説を立てて、考えて、判断して、実行するという人たちの力が、まちを活性化していくのではないのかなと思いますので、こういった議論をして、実際実行する人たちがそれをやる機会がたくさんあると良いのではないかと思います。</p>
鈴木会長	<p>では私も一委員として、言わせていただきます。まず、移住定住の話の中でだれをターゲットとするのか。そのときに、よく見た方が良くないかと思ったのが、隣の大口町が2040年までに人口が増え続ける。これは大口町での企業誘致と就業事業の獲得、住宅整備、そういったことがうまくマッチしているという事があって、人口が増えていく。区画整理も積極的に行われている。ならばその人口をとればいいと思ひまして、大口町は男性がまず積極的に働いて、家庭を持つための貯蓄を増やしていますので、その資金をもって結婚して家庭を築くパートナーである女性をターゲットにしてはどうか。具体的に言うと20代～40代の女性をターゲットにして犬山はこれからまちづくりをしていくことが大事なのではないかと思ひました。特にパートナーを持って暮らし始めると、おそらく人生の中で2回ほど住居を購入することになると思ひます。仮に大口町で最初の住居を持って、犬山でもっと大きな家を提供できるように、大口町でアパートであれば犬山で新居を持つとか。犬山で新しい住居を持って、でき</p>

	<p>れば将来、親と同居できるような。当面は2地域・核家族世帯の関係から、今度は2世帯居住を促していくような、そういった住宅環境づくりをしていくことが大事なと。</p> <p>住宅政策だけではなくて、3つほどポイントがあるかなと思いました。1つはキャッチフレーズがあるといいという話があったので、考えていました。まずは「働くなら犬山市」これはよくあるものですね。2つめは「介護支援なら犬山市」。介護が必要なお年寄りがいると、どうしても家から出られなくなると教えてくださったので、家から出ようとしない要介護者を掘り出して、役目役割、期待を与えて街に出てと。これは、施設を作れということではなくて、役立ち、役割をどんどん与えて、決して孤立無縁化しないという戦略を徹底して行うことを地域の中でやる。町内会のこれからは一人で孤立無援化しない高齢者を作ることが大事ではないかと思いました。それから3つ目、「パパとママなら犬山市」というものです。無責任ですが思いついたので言わせていただきました。</p> <p>はい、皆さまありがとうございました。</p> <p>本日の皆さまのご意見を事務局にて取りまとめていただき、1月の会議では最後のまとめになっていきます。事前に資料が送付されます。</p> <p>それでは議事を終了し、進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>鈴木会長、ありがとうございました。</p> <p>次第の「4. その他」につきまして、事務局からお話します。</p>
事務局	<p>次回の日程についてお話をさせていただきます。今回は1月20日（月）の午後7時からになります。会長からもお話がありましたが、今回は戦略改訂についての最後のまとめとする予定ですので、よろしく願いいたします。</p> <p>現時点で出席できないことが分かっている方がいれば、お知らせください。</p>
事務局	<p>これにて、令和元年度第2回総合計画審議会は閉会とさせていただきます。</p> <p>委員の皆様、本日は、誠にありがとうございました。気をつけてお帰りください。</p>

＜ 閉 会 ＞